

http://www.e-meisei.net

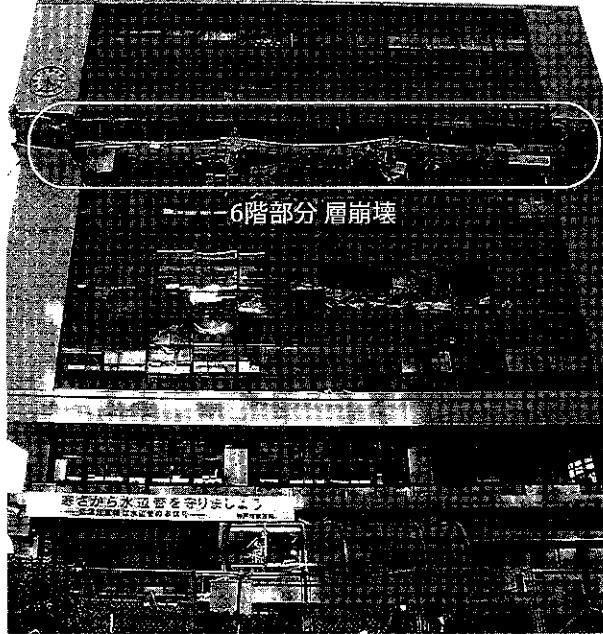
No. 73

■発行/(公社)愛知建築士会名古屋西支部
 ■編集/広報渉外委員会
 名古屋市西区名西一丁目20番49号クラ設計内
 TEL(052)908-0939 FAX(052)908-0836
 ■印刷所/株式会社 ウエルオン TEL(052)732-2227

阪神・淡路大震災から20年

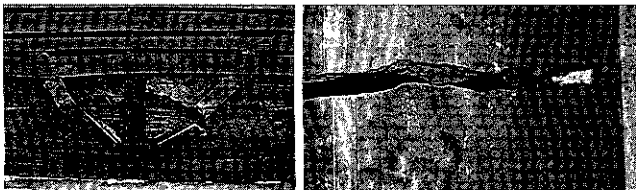
森 登

1995年阪神・淡路大震災(水平833ガル・鉛直507ガル、104カイン)により、新耐震(1981年)以前の木造住宅に被害が集中した。構造の老朽化、スジカイの不足・アンバランス・取付不良・脱落・折損、柱頭・柱脚部の引抜などの原因による倒壊被害が際立った。非木造では高層住宅団地の極厚鉄骨柱(肉厚50mm)が水平方向一字に破断し、神戸市役所第2庁舎の6階部分が層崩壊した。芦屋市民センターのピロティRC柱が圧縮破壊し、鉄骨造では欠陥溶接部が破断した。首都高が倒壊し鉄道高架橋・駅舎が崩壊した等など。新耐震以降の木造住宅には比較的被害が少なく、死亡者数は全体の1.9%にとどまった結果、「新耐震以降の強度になっていれば、倒壊に至らなかった木造住宅は多数あったはずだ」と言われた。以降、東海地域でも新耐震以前の木造住宅に無料耐震診断の要請が急増し、リフォーム時期にきている木造住宅については耐震改修も進んだ。ちなみに耐震改修の実績は平成23年度愛知県建築物耐震改修促進計画「あいち減災プラン2020」によると、愛知県下木造住宅で「耐震性有り住宅」は74%、非木造住宅で95%となっている。しかし注意したいのは、「阪神・淡路大震災で、新耐震



▲神戸市役所第2庁舎:阪神大震災の教訓より

の木造住宅でも大破・中破以上の被害が出た」ということ。「地震活動期に突入した」、確実に迫る「その日」について議論される中、大震災の教訓を受けて2000年法改正があった。木造住宅では柱頭柱脚の引抜防止、耐力壁のバランス・偏心のチェック等、非木造には剛性率・偏心率の制限を設け、応力の割り増し規定が盛り込まれた。私たち建築士は市民に向けて「新耐震以降だから大丈夫なのではなく、逆



▲スジカイの折損:阪神大震災の教訓より ▲極厚鉄骨柱の破断:阪神大震災の教訓より

青年委員会研修見学会

水野 志穂

2月28日(土)三重県松阪市・明和町に行く青年委員会研修見学会を行いました。急遽交通手段をバスから電車に変更し11名のんびり電車の旅となりました。

近鉄名古屋駅で集合し電車に揺られ約1時間半、松阪駅に到着。15分ほど歩いて「御城番屋敷」に向かいました。道中さすがは松阪、松阪牛のお店が至る所にありメニューが外に出ているとみんなで足を止め見るということもありました。

「御城番屋敷」では西棟北端の一軒以外は普通の住居として使われています。人が住んでいるとは思えないほど静寂で、模垣に挟まれた石畳の道を歩きながら、江戸時代はこんな感じだったのかなと思っていると、車も石畳を通り抜けていきます。近くに駐車場スペースがあり現代の生活に対応しながらも江戸時代の建物が現存して住まわれていることに感服です。公開されている内部は間口五間、奥行五間、玄関から土間を抜けると庭があり、質素で最小限ながらもとても豊かな気持ちのよい空間でした。松坂城跡に登り、上から長屋の屋根、全景の美しさを堪能。降りてきてすぐ隣の旧三重県立工業高校製図室に向かい、明治41年に建てられた現存する唯一の赤壁校舎を眺め昼食とまち歩きに向かいました。

松阪駅から斎宮駅に移動し「斎宮歴史博物館」へ。斎宮の歴史や出土品、発掘場所などを熱心に説明して頂きました。ここからガイドボランティアさんに斎宮跡と



「いつきのみや歴史体験館」を説明して頂くことに。1970年に始まった発掘調査は現在も続いており、少しずつ姿を現し始めたようです。遺跡の規模は約173haと広大で、駅の北側にある広場は史跡全体を1/10のスケールで建物や区画も配置されています。都と同じように都市が形成されていたことに驚きの声も上がっていました。

また、電車移動で時間にゆとりが出来、人数が11人と少なく、建築士会の人々だということで、ガイドさんがせっかくならと斎宮跡復元建物の工事現場見学を手配してくれました。現在、復元工事として正殿および東脇殿、西脇殿、三棟の復元が進められています。現場では見学だけでなく建設会社の方が質問に全て対応して下さい、帰りの電車で「まさかヘルメットを被ってディテールまで見れるとは思わなかった」という感想が出るほど時間も内容も充実した見学をすることができました。お天気も良く菜の花や梅が満開でとても良い散策日和に思いがけず良いものを見ることができた見学会でした。

落語の夕べ

渥美 大作

私、みのじの館の館長でございます。去る2014年12月5日にみのじの館におきまして、「落語の夕べ」が催されました。私が来てから始まった年1回の会も今回で3回目となりました。過去2回はJazz、Classicとのコンサートが催されてまいりましたが、今回はガラリと趣向を変え、落語が公演されることとなりました。

演者を務めるのは鶴羽亭園造さん。アマチュアの噺家でありっしやいますが、実は建築と深い関係の方で本職は造園家です。確かに芸名からも推測できますね。会の主催が美濃路まちづくり推進協議会ということで、建築にまつわる演目を選んでくださりました。お噺は「牛ほめ」で、頼珍漢な与太郎さんがお父さんのお使いで、伯父さんの家をほめに行くというものです。ネタバレしませんが、興味のある方はご自分でお楽しみください。

日頃は館を事務所として使っておりますが、机を合わせて毛氈を敷くとそこはもうすっかり高座になってしまいました。



後ろからでも園造さんの全身がしっかり見えます。身振り手振り表現する落語ですから舞台は重要ですね。会場はヒューマンスケールの町屋ですので、園造さんの肉声が一番後ろにいる私まではっきり聞こえてまいりました。息遣いまでも感じるほどの臨場感があり、噺に引き込まれていきました。建築の話も興味深く、またお噺の面白さにたくさん笑わせていただきました。

公演後は園造さんを囲んでの懇親の時間が設けられました。その場でも園造さんからは面白いお話をたくさん聞かせていただきました。今度、園造さんの作られたお庭を見に行ってみようと思っております。

これまでの会で行った町屋でのLiveには意外性という面白さがありましたが、落語ということで町屋の雰囲気にも馴染む趣深さがあるように感じます。月日を重ねた町屋で古くから人々に愛されてきた古典落語を味わう、とても素敵な町屋の寄席でした。

美濃路ウォッチング

白井 鏡造

○四間道・那古野界隈まちづくり協議会
 ・五条橋親水空間「堀川広場整備工事」は2月に第3回目の入札が行われ、今回も応札業者がなく、再度の見直しが必要となった。9月は大幅な予算オーバー。その後、設計の見直しがされ、12月の入札では応札なしに続き、今回の結果となった。名古屋市は再度、見直しを図り、実現に向け取り組むとの意向を示した。

・1月8日(木)建物・街並みルール・川伊藤家作業部会合同の懇親会が四間道の古い蔵を改装した和食の「懐韻(なつね)」で開催された。この蔵は、家主の方が「活用できなければ解体し住宅用地にしたい」との意向を、当会地元会員に示されたため、即、現地調査を行った。会員の市原正人氏につなぎ、市原氏のネットワーク活用と、設計により実現したもの。築150年の蔵をできる限りそのまま活用した空間は店の名前に表わされ、魅力ある空間がまた一つ、この地域に加わった。念のため、懇親会会費は自費。

・2月の定例会にて杉本会長が退任を表明された。平成24年1月の協議会立ち上げ準備会から、同年10月の協議会設立を経て3年にわたり、地元を代表し、まちづくりの先頭に立たれた。多様なメンバーをまとめ、まちづくり構想をほぼまとめられた時点での表明。まちづくりの行方が心配になります。

○清須越400年ネットワーク
 ・橋町大木戸跡史跡説明板が地元委ねられた後の課題は、名古屋甚盤割京町通り「茶屋町の伊藤屋」(のちの松坂屋)の史跡説明板設置となった。松坂屋OBの原稿を幹事会で細部にわたり詰める作業が進んでいます。

○美濃路まちづくり推進協議会
 ・2月1日(日)私達の会が設置した「美濃路史跡説明板」の現状調査を行った。設置から既に最長14年がたち、木製の架台に取り付けられた説明板は、木部が腐食し、そのため、既に倒れて補強したものもある。原田、山田正、白井の3名が自転車で西区江川の一里



塚跡に集まり、美濃路を西へ。枇杷島橋を渡り、西枇杷島、新川から清須の総見院まで、約8kmの間に設置された27ヶ所の説明板を、全て調査した。このうち2ヶ所が紛失、1ヶ所は設置箇所が工事中のため回収中。現在24ヶ所の説明板が設置されている。アルミ板+樹脂複合板にカットシート張りの説明板本体のみで設置したものは、維持状態はよく、まだしばらくはこのままの状態を保つことができそう。2ヶ所で人為的に傷つけられており、取替えが必要であった。木架台に説明板本体を取り付けたところは8ヶ所あり、補修済の1ヶ所を除き、7箇所全てが木部の腐食により取替えが必要と判定した。当会まちづくりの原点である史跡説明板をいつまでも残してゆくと、次年度から順次、取替えてゆく予定。

・「みのじの館」館長が交代。
 平成24年7月から館長を務めていた温美大作氏は、都心のオフィスビルへ事務所を移転することとなり、新しい館長を探していた。名古屋西支部会員の高橋秀明氏が手をあげ、2月27日(金)枇杷島みのじ会会長の後藤昌治氏、当会会長の私と高橋氏の3名が家主を訪問し、了解を得ることができた。3月末頃、バトンタッチの予定。

・当会と枇杷島みのじ会共催の「落語の夕べ」がみのじの館で開催された。詳しくは本紙一頁に温美氏が報告しています。

・3月15日(日)、枇杷島みのじ会と当会共催の視察旅行が開催された。



行き先は奈良「大宇陀松山地区の街並み散策と吉野」。世界遺産の金峯山寺蔵王堂～竹林院～大宇陀松山地区を散策しました。

第2回研修勉強会

住育について学ぶ

2月19日(木)TOTO(株)名古屋支社マルチスペースで一般社団法人日本建築プロデュース協会代表理事、住育コンシェルジュ、建築写真家の田岡信樹氏の講演会がありました。勉強会は講演会とTOTOの「住まいのバリエーションセミナー」の2部構成でした。

「食育」という言葉が世の中に出てきた時、私は正直「必要なか?あたりまえのことなのではないか?」と思いました。しかし、生活スタイルが多様化し、外食産業の発達、コンビニの普及などにより「ご飯を食べる」のひとつで想像する姿がひとつではない時代になったのです。また、食の安全性が問われる時代にもなりました。知らなければ周りにあるものが普通(安全)と思っていたのに、知ってみると安全ではないものも周りにあるということも。自分から情報を取りに行かなければ、または知らなければ自分が選択するのは安全ではなかったり、後悔することになる事があるかもしれない。これと同じことを住宅が求められることはあたりまえのことかもしれません。



今回の「住育について学ぶ」は、ハウスメーカーに在籍した経験等をお持ちの建築写真家の田岡信樹氏が、未来の子供たちの為に私たちができることを考え、「なぜ住育なのか」から「国全体の住生活の向上」まで、消費者の意識・社会背景をもとに講演して頂きました。

建築士は毎日仕事として住宅をはじめ人が生活をする建物と向き合っている為、あたりまえと思うことも、住まい手は住宅を建てる時、買う時まであまり注目していなかったりするので、知識や情報は個人でばらつきがあり、情報収集のタイミングとしては遅くなります。住まい手に満足のいく生活を送ってもらう住宅、愛着を持って貰う住宅を手に入れてもらう為にも、住育が必要だということだと思いました。自分の住む家に愛着がわき、大切にしようと思う事を、子供たちが継承することは、日本の文化を大切にすることになるのではないかと考えさせられる講演会でした。

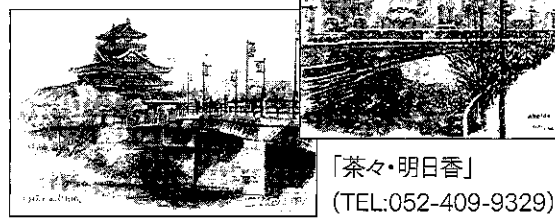
「水彩画同好会」の活動報告と「個展案内」

(公社)愛知建築士会 水彩画同好会 会長 岡田 巖

会員相互の親睦と友情を育み、愛知建築士会の発展に寄与する目的で平成25年12月に発足した。毎月定例会を開催し、建築物と四季折々の風景美描写をしている。各支部を巡回し、いろいろな出合いや街並を発見しスケッチを描いている。

水彩画を媒体として、各支部の歴史や文化、街並デザインの発信もしている。その他、士会会議室での勉強会も開催し、画材・技法・特性等の実技指導・研究をしている。建築総合展(吹上ホール)で会員作品の展示会を開催した。又月刊誌「愛知の建築」表紙に会員作品の掲載をお願いしている。現在会員数25名です。皆様のご参加お待ちしております。

今般『岡田巖・水彩画展(個展)』を3月19日～4月13日まで、地元、清須市寺野の「茶々・明日香」二階ギャラリーで開催。多数のご来場お待ちしております。



「茶々・明日香」(TEL:052-409-9329)

ヘリテージマネージャーの活動について 平手 公基

過日、あいちヘリテージマネージャー養成講座(基礎講座8回、発展編講座7回、合計15講座)を修了し、ヘリテージマネージャーの資格を取得、第3期生として登録いたしました。その活動について記します。

ヘリテージ(heritage)とは遺産→継承・伝承、マネージャー(manager)とは交渉、世話に当たる人という意味です。「ヘリテージマネージャー」とは、文化財建造物を活かす為の協力をし、文化財建造物に関する資料作成等が出来る能力を有する人材の事を言います。

ヘリテージマネージャー誕生の背景は阪神淡路大震災により歴史的建造物が倒壊し、再生されず壊されてしまったことに端を発しています。

ヘリテージマネージャーの活動内容は文化財建造物所有者へ保存・活用についての助言、新たな発見や新規登録を目指し、地域での調査発掘、市町村の文化財建造物について協力と助言、文化財建造物の調査、資料作成等です。

昨年暮れ、早々に、愛知県の近代化遺産調査の依頼をいただき、知多半田地域の歴史的建造物の現況調査を行いました。先人の智慧と工夫と努力の結晶である価値ある建物に関わることで得た建築的知見は、普段の設計業務に反映していきます。私なりに日本建築文化の継承に努めて参ります。

歴史的建造物の保存活用といっても、実際に個々の案件に関わっていくと、なかなか一筋縄ではいかないのが現実だという事を痛感しています。

歴史的建造物の所有者の事情や気持ちに寄り添うように、保存・活用についての助言をする姿勢が不可欠だと感じています。

自分が生活する地域にも未発掘の歴史的建造物があるかと思えます。そうした建物に目を向け、価値を見出し、光を当て、豊かな建築文化薫る町並みの形成に微力を尽くしたいと思います。

文化財は我が国の歴史や文化の理解に不可欠で、将来の文化の発展向上の基礎となるものです。

ヘリテージマネージャーとしての立場で、今後の活動に努めて参ります。



▼國盛酒の文化館 外観

平成27年度

支部通常総会のご案内

■日 時 平成27年4月22日(水) 午後6時より
 ・受付:5時30分より
 ・懇親会:7時より(会費5,000円)

■場 所 ホテルサンルートプラザ名古屋
 中村区名駅2-35-24 TEL 571-2221

※つきましては、返信用ハガキにて4月10日(金)までに必ず出欠のご回答をお知らせいただき、欠席の場合は委任状欄に記名・押印くださるようご協力ください。メールアドレスのご登録もお願い致します。

新入会員の抱負

小川 剛志

このたび名古屋西支部に入会させていただいた小川剛志と申します。

私の実家は古くは材木店を経て工務店を営んでおり、小さい頃は製材後の木っ端で遊び、「ものを作る」ということが当たり前の環境で育って来ましたので、将来は建築関係の職に就こうと、大学は建築学科を専攻しました。

そこで、建築に向き合う姿勢が良くなかったのか「きみは建築の仕事は辞めたほうがいい」と担当教授から言葉をかけられ「なぜ建築の勉強をしているのか」「なぜ建築の仕事がしたいのか」、この教授の言葉をきっかけに自分自身を見つめ直し始めました。

それからはとにかく実務に繋がることは何かと考え、食事に入ったお店や行く先々で見る建物の各部位の取合いを見るようにし、始めはわからないことでも続けることで自分の糧になるよう写真に収めたりしていましたが、今でもその問いの答えをみつけられたかどうかは定かではありません。

自分自身のルーツだとか、長年住んできたこの地域への感謝の気持ちを忘れず、先人から受継いだものを繋げていくことがひとつの答えになればと思います。

そのためにも、その時々合った変化に順応できるよう自分自身が学び続け、常に成長し続けられるよう建築士会に入会させていただき、皆様との出会いの機会を頂けたことに感謝を申し上げますとともに、諸先輩方々から常に謙虚に学び続けたいと思っております。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。



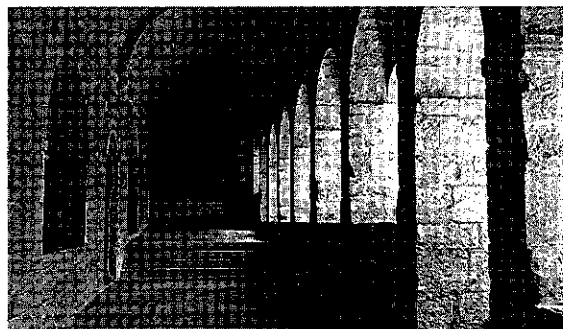
秘密の場所

永井 政光

世俗による虚飾に一切まみれていない清浄で厳かな空間が、南フランスの片田舎にあります。その建築とは、みなさんもご存じのル・トロネ修道院です。この建築は11世紀から12世紀のロマネスクの時代に建てられたそうです。世界的建築家である安藤忠雄さんも20代の無名時代に、独学で建築の道を歩む決心をし、数回の世界旅行を企てた際にル・トロネ修道院を訪れています。そして、その旅の中で命がけで修道院建設に取り組んだ修道士の生涯を描いた、ル・トロネ修道院の建設物語である『粗い石』という本を何度も読まれたそうです。また、ル・コルビュジェがラトゥーレット修道院を設計する際、その依頼主である神父さんに、ル・トロネ修道院を見に行くようにと指示されたことも、この建築を有名にした一因だと言えそうです。

さて、私は大変苦勞して(というか奇跡的に)その地に辿り着くことができました。(ご興味のある方は、私のブログ「今日のてくてく」をご覧ください。)

実際にル・トロネ修道院を訪れ、期待をはるかに超える大きな感動を得ました。装飾は極めて少なく、丁寧に積み上



げられたシンプルな空間。秩序よく並んだ窓の大胆で彫りの深い開口部からの光による明と暗の対比の美しさ、シンプルであるがゆえに際立つ、丁寧に彫られた石の、いかにも石らしい素材としての魅力。そして、窓の彫りの深い開口部や階段などによる、渾然一体となった空間全体の彫刻的で、立体的、幾何学的で静謐な美しさ。動きのある、繊細で、きらびやかで、線や面としての美しさというよりは、静かで、朴訥とした、明暗や単色、リズムといった、より原始的、根源的、そして量塊としての魅力...

建築の力を思い知ることのできる、数少ない建築かもしれません。

記憶の中の原風景

里謡のわらべ歌

中島 鐘重

今朝起き掛けに、ひょうんな事から子供の時のわらべ歌を想いました。記憶にあるうちにと書き込みました。

私が子供の時、春秋のお彼岸時、お寺参りの習慣が色濃く残っていた時代、お年寄りから夏の夕涼みに縁台で教わった覚えがあります。他にも未だ2~3首聞き覚えておりましたが、すっかり忘れてしまい、この1首だけ記憶の中にはっきりとしており、突然思い出したような次第です。

これは子供たちが円陣を組んで、一人ずつ詩を誦しながら楽しむ遊びで、今の子供達はこの様な風景は望んでもありません。又、このような里謡は大人が忘れ去ってしまい、子供達に伝え教える習慣も情緒も無くなりました。この詩はこの地の名古屋弁で覚えており、併せて今様言葉も併用して書いてみました。

詩の内容は、つぼ(たにし)が田んぼの土の中に居り、お寺参りに横を通って行く子供達がつぼに言葉を掛けて寺参りに誘うが、つぼは「ここから出ると鳥が私を狙っておるので、お寺参りには出掛けたいが、そんな訳でよう行けません。」と節をつけて返事をして来ました、そのやり取りを

詠った歌です。最後に次の子供にバトンタッチをして遊びを促している所です。

上段が名古屋弁、下段が今様に解釈をした歌の内容です。

子供達

つぼさんつぼさん おひがみゃーりにいきゃーせんか、
つぼさんつぼさん お彼岸詣りに出掛けませんか。

つぼ(たにし)

おひがみゃーりはしたゃーけれど
からすといゆうくろどりが
お彼岸詣りに行きたいけれど 鳥と言う黒鳥が
あしをつつき てをつつきにくるでなも
私の足を突き 手を突きに来るので
それでようまいりゃーしてもらえんのだは おつぎさまー
それでよう詣りに出掛けれませんか お次の方どうぞ

私が育った名古屋市中村区栄生町の古老から教わった、子供の遊び詩です。このような言葉の情緒を楽しむ子供たちの姿が、幾十年過ぎた今でもはっきりと心の隅に残って、突然思い出す事は自分が歳を取り、いよいよ人生の終着駅に近着いた事かと思うと、一寸寂しい気が致しますが、記憶の中の一頁として皆さんに受け止めて頂ければ!

私のおすすめ

関山 総一郎

かっこつけたヘッドホンを紹介致します。「Philips Fidelio」。タイプは複数ありますがオススメです。



正直音楽に詳しくないため、あっちこっち聞き比べたことは少ないですが、この機器が他のヘッドホンやスピーカーの中でもバランスがいいことが分かります。AKG・ゼンハイザー・SHURE・A-T・etc。「遠近感」は美しく、「音量を絞っても残リ、音量を上げて割れない」こと、僕はピコピコした音が好きなせいか低音が程々なも疲れにくくてよいです。特に装着感の良さは驚きました。ヘッドホンの装着タイプとして耳に乗せるタイプのオンイヤ型と耳を包む形のアラウンド型があり、事務所では前者、自宅では後者のタイプを使っているのですが、後者は在宅時のヘッドホン装着の快適さにとろけそうです。前者は持ち運びの利便さはあるものの長時間装着していると耳周辺が痛くなってきますが、クッション性に優れたこの子はなんといいことでしょうか。優しく愛でるように耳を包んでくれます。僕はたぶん頭が特別でかいわけじゃないのですが、いわゆるハチが張ってどうにも帽子の類が似合わない形のため「ヘッドホンが…」という引け目を持っていたのですが、これはそんな僕も「いいんだよ」と許してくれるようです。在宅中10時間を超える装用にも不快感を生じずにいられます。そして重くもないです。音の面でもアンピエントのような360° 方面のリズム無しからエレクトロ系の打込みを含めた覚醒系まで、程々音良く対応できるところも素敵です。多方面にそれぞれ特化したものはありますが、そこまで深く聞きこまない中庸の良さがあります。何とかカメラ・何とか電機に行かれることあれば、是非お試しくださいように。

青年委員会懇親会

丹羽 豪

1月23日(金)新年会&懇親会が開かれました。場所は、名駅四丁目「クナイペゲンゲンパッハ」という本格ドイツ料理とドイツビールのお店です。今回は、若手同士の意見交換、情報交換という事で、渥美、伊藤、今井、小川、関山、永井、平手、牧野、三木、水野、私(丹羽)の計11名が参加致しました。ドイツビールで乾杯をし、これぞまさにドイツ料理というウインナーやハムなどを美味しく頂きました。しかし、ピッチャーグラスのラベルが、キリンだったのは、ちょっと残念でした(笑)。

ビール以外の変わり種では、ホットワインなる物があり、寒い夜にはなかなか良かったです。程よく呑んで、盛り上がりしてきた所で、一人ずつ自己紹介をしました。いつもの顔ぶれ以外の方では、伊藤・関山・三木さんが当支部の鏡さんの会社に勤務されています。今井さんは、残念ながら勤務先が、名古屋から移動するらしく、西支部からも移動するらしいです。小川さんは、偶然私の弟の

同級生らしく、西区で建設業をやられています。

皆さん建築士会の事や、雑談を交えながら、美味しい料理とお酒も進み、あっという間に時も経ち、お開きの時間となってしまいました。その後何と全員参加で二次会に行く事になりました。場所は、桜通りを挟んで向かい側の居酒屋「竹庭 ともり」という竹林をイメージした和風の感じのいいお店でした。20名程入れる個室を用意してもらえ、前のお店とは雰囲気さがらっと変わったものの、情報交換、会話も弾み、あっという間に終了の時間を迎えました。

とても楽しく、有意義な時間を過ごせました。又こういう集りを通して、楽しみながら、支部活動、地域、社会貢献への提案を議論出来たらと思います。



愛知県 平成26年度 1級建築士 設計製図試験 合格者占有率 No.1 65.3%

愛知県合格者占有率 愛知県の合格者のおよそ3人に2人は、当学院の現役受講生でした。

愛知県合格者216名中、141名が当学院受講生

1級・2級建築士
1級・2級建築施工管理技士
1級土木施工管理技士
宅地建物取引主任者
インテリアコーディネーター

総合資格学院 結核 TEL.052-202-1751

国土交通省大臣認定 建築技術性能証明 建築技術性能証明

SMD杭 スーパーミニドリル DM(77)工法 SMD杭工法シリーズ HITSコラム スラリ-系繊維複合材 高層適合処理工法

造園 外構工事・公共工事 地盤調査・地盤改良 SMD杭製造・販売 石材加工・販売

株式会社 本陣

〒461-0048 名古屋市中区矢田三丁目13番7号
TEL: 052-722-3000 FAX: 052-722-8311
E-mail: info@honjin.co URL: http://www.honjin.co

長野県白馬村で強震 倒壊家屋多数、しかし 死者ゼロ!! なんで?

解説 馬場 富雄

昨年11月27日夜10時8分、長野県白馬村で強震が発生した。夜の時間帯であったため、ほとんどの住宅に人が居たものと思われる。そして、計240戸の全半壊の被害が発生した。当地方の居住者たちは皆で助け合って暮らして団結力が非常に強く、倒壊家屋に閉じ込められた人々を近隣の一致協力で助けだし、死者ゼロの結果が出たのである。

マスコミ各紙は一齐にこのことを報道しほめた。一般人にしてみれば「それは良かったね」であるが、我々建築士は、この「死者ゼロ」についてももう少しその理由を考察すべきであろう。この「死者ゼロ」は倒壊家屋の中で皆生きていたということである。すなわち、人がやっと生存できるだけの隙間があったということである。

あの20年前の阪神淡路大震災では倒壊家屋の下敷きになって亡くなった人が4千人を優に越えていた。ガレキに挟まれて体の自由を奪われ、胸部の圧迫で呼吸ができず亡くなられた方が多かったのである。

それでは何故(なぜ)白馬村の地震では倒壊家屋の中に人が生存できる隙間ができたかを倒壊にいたるまでの状態毎に考えてみる。

図1は建物に地震力が入り、一階部分の変形が始まる。図2は繰り返す地震力で変形が進み、ついに通し柱がへし折れて建物の倒壊が加速的に進む。図3は二階部分が地面に激突し、一階は完全に倒壊して終わる。

この場合二階部分は一階部分の倒壊により、クッションの上に載った様になり、あまり地震力が入らないので、倒壊した一階の上にはほぼ完全な形のまま載る場合が多い。(写真はいずれも阪神淡路震災のもの)

一階部分の柱は全部倒れてしまうが、水平になるまで倒れてしまう場合は少なく、柱の頭部が家具、机、構造物等につかえて図4のように斜めで止まり、その下に隙間ができる。

この場合、柱は梁の役目をして上からのガレキ等の落下を防ぐ。このことから、柱が太いほど梁の効果が大き

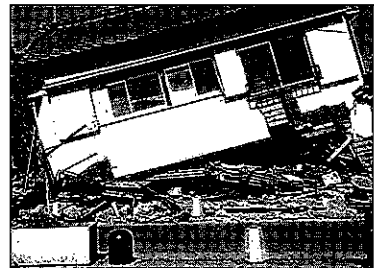

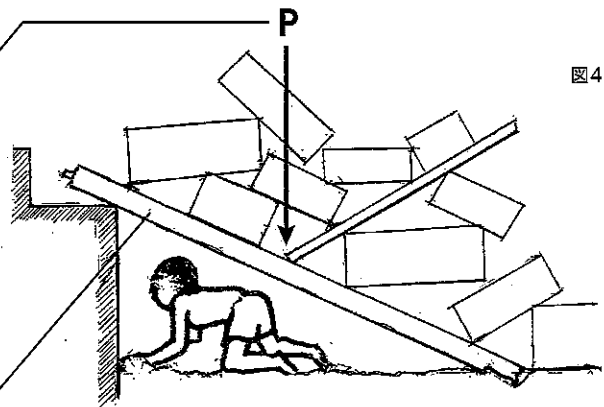


図5 柱径 $\phi=3m$
限界応力度150kg/cm²で計算

-  3.5寸角 386kg
-  4寸角 576kg
-  5寸角 1126kg



く、隙間が保持される。

長野県の中でも豪雪地帯として有名な白馬村は昔から積雪に耐えるように、家は太い柱「12cm角=4寸角」と「15cm角=5寸角」がメインで建てられている。今度の白馬地震では太い柱のため倒壊しても隙間がよく保持されたのではないと思われる。

参考のために、「10.5cm角=3.5寸角」と「12cm角=4寸角」と「15cm角=5寸角」のそれぞれの柱を梁とした場合の耐える積載荷重を計算してみた。柱の寸法を増すことによって強度は非常に大きくなる(断面係数の関係)。特に「15cm角=5寸角」になると軽自動車載せてもよいくらいの荷重に耐える。柱は最後の最後まで人命を守るのである。豪雪地方の方々は、この太い柱の家に住んで精神的に安定して暮らしている。

一例であるが、新潟の豪雪地方で生まれ育った方が名古屋に住んで自宅の細い柱をみていると、時々「こんな細い柱で危ない!」と精神的に不安を感じるそうである。

また他方、可児市内の某団地開発の話であるが、事業者が「東濃の檜」のPRのため、分譲住宅を全部「東濃の檜」の「12cm角=4寸角」と「15cm角=5寸角」で建

てた。見学に来た人の中には「柱が太すぎてゴツツイな」と嫌う人もあったというが、建物は売れて、現居住者からの不平はないようである。

人の目というものは、ある太さに慣れると、それより太くてもまた細くても異常を感じるものである。当名古屋地方では「10.5cm角=3.5寸角」の柱で建てているものが多いが、「12cm角=4寸角」で建てる家が増えてくれば人の目には、これが通常の太さになり異常を感じなくなるのではないだろうか?

「10.5cm角=3.5寸角」と「12cm角=4寸角」の柱ではその強度に格段の差があり、「12cm角=4寸角」の方が防災的にははるかに有効である(図5参照)。

木材の石数の関係から、工事費は若干の増加はやむを得ないが、このことを建築主に説明して理解が得られれば「12cm角=4寸角」の家が次々に建てられて、防災的にもその慣習ができることを願っている。

春夏秋冬 伊藤 翔

最近気になっている事は、6月1日から建築確認の申請手続きが変更になるということです。私が所属している事務所では、主に構造設計をおこなっている為、業務に大きく影響が考えられる変更としては、建築主が構造計算適合性判定(以降適判)を直接申請するという点で、適判を建築主事等の審査から独立させ、建築主事等による建築確認と適判機関で並行審査し、審査の円滑化を期待するというものです。

現在の制度は構造計算書偽装問題を受けて、平成19年6月から始まっているので、8年ぶりの改正です。最近では建築確認、適判共、構造審査はかなり早くなっており、しかも今年の1月からは、愛知県でも適判機関が選抜できるようになっており、もうすでに円滑化している感じがします。今回の制度改正により、建築主・意匠設計者・構造設計者に負担が増えるような事が無ければいいのですが。

編集後記 鶴飼 正樹

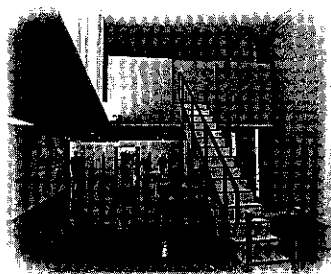
子供の頃、理科の時間にたった3つしかない伝導・対流・輻射の熱の伝わり方を教わった。何故、真夏の直射日光の暑さと木陰の涼しさは気温とは関係ないのか、太陽からの電磁波が分子を振動させて、それがぶつかり合うことによって熱が生まれることを知るのはそのずっと先のこと。断熱材を厚くするだけのことでこれからの時代の物事が解決すると思っていると輻射熱でやけどをし兼ねない。

コルビジェを訪ねて⑦

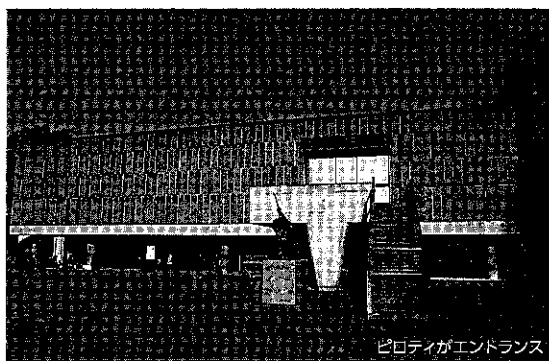
志賀 勝利

「国立西洋美術館」

コルビジェ唯一の日本での作品。1955年(昭和30年)に来日し、敷地を下見し、構想を練る。そして4年後(1959年)に東京・上野の森に完成。松方コレクションの収蔵・展示の美術館。実施設計は彼の弟子の前川國男、坂倉準三、吉坂隆正が協力。コンセプトはスロープで回遊する“無限に成長する美術



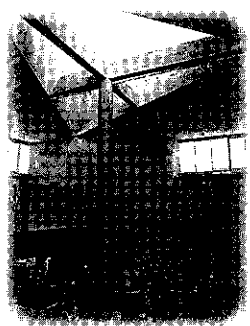
▲展示スペース天井高2.26m吹き抜けは2倍



ピロティがエントランス

館”。もちろんピロティ、モジュール、トップライト、ハイサイドライトのエッセンスが盛り込まれる。自然光で見る展示空間が特筆(現在は人

口照明併用)。国内で身近にみられるこの作品は必見。今回でシリーズは終了です。いつの日かチャンドイガール(インド)の作品群を訪れたいものです。



トップライトとハイサイドライト▶

住宅リフォーム・リニューアル工事、耐震補強工事

集合住宅・ビル・マンション・一般住宅・倉庫・工場・営業店舗

豊かな環境を創造する



テレビ愛知 毎週土曜 PM7:00~7:54

「探Q!Aトリップ」CM提供中

URL <http://www.murate.com/>

〒453-0861 名古屋市中村区岩塚本通1-51 TEL052-411-8111 FAX052-413-1036 津島(営) TEL 0567-31-0780 名岐(営) TEL052-400-1291

Total Media Support

WELL ON 株式会社 ウェルオン

〒460-0007 名古屋市中区新栄三丁目21番31号

TEL 052-732-2227 FAX 052-733-3178

URL <http://www.well-on.co.jp/>

